

平成 30 年度
自己点検・評価報告書

令和元年 9 月

獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

教育理念・教育目的・教育目標

教育理念

獨協学園は、「知育・徳育・体育」の3つを掲げ教育に臨んでいる。獨協医科大学は「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師を育成する」ことを教育の基本理念としている。本看護専門学校は「知育・徳育・体育」の精神に基づいて、人格を涵養し、「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する」ことを教育の理念とする。

教育目的：

豊かな人間性を養い、臨床看護実践能力のある看護師を育成する。

教育目標：

1. 人間の生命と権利を尊重し、人間を総合的にとらえる能力を養う。
2. 科学的根拠及び論理的思考に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
3. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、協働意識をもって看護の機能を発揮できる基礎的能力を養う。
4. 心身ともに健康で、バランスの取れた豊かな人間性を養う。
5. 主体的に学習し、考え、看護を探究する姿勢を養う。
6. 生命と人に対する深い畏敬の念と倫理観を備えた看護観を形成する基礎的能力を養う。

卒業時の学生像

1. 看護倫理に基づいた思いやりのある看護ができる。
2. 看護師としての責任と自覚をもち、主体的に学習する姿勢がある。
3. 人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいて健康問題を解決する能力がある。
4. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解し、連携と協働ができる基礎的能力がある。
5. 生命と人に対する尊厳を重んじた自己の看護観を持っている。

アドミッションポリシー

1. 人間や健康、人々の生活に関心がある人
2. 他者を尊敬し、人々とのふれあいができる人
3. 自ら考え、自分の意見を表現できる人
4. 看護師をめざす意志を強く持っている人
5. 使命感と責任を持ち、地域住民の健康に関心を持てる人

平成30年度 学校運営方針

1. 専門職業人として品格のある看護実践者の育成

- 1) 学生個々を尊重した丁寧な指導
- 2) 看護者としての倫理的姿勢とマナーの育成
- 3) 専門職業人として模範となる教員の姿勢
- 4) 社会人としてのマナー教育の充実

2. 教員の資質向上と教育力向上の推進

- 1) 教員ラダー・自己目標に沿った自己研鑽・研修・研究活動の推進
- 2) 各プロジェクトの活動の推進と評価
- 3) 看護実践力向上へ向けた学校・病院間の人事交流の推進

3. 国家試験 100%合格への教育強化

- 1) 入学前学習及び低学年から継続した基礎学力向上対策の充実
- 2) 学生がやる気を持ち、自ら学ぶ行動が取れるようなかかわり
- 3) 共同学習・チューター制による指導の実施
- 4) 出題基準・国家試験の動向をふまえ確実な知識習得の支援

4. 資質を備えた学生の確保

- 1) 時代と社会のニーズをふまえた定員増員へ向けての募集戦略の立案と実行
- 2) 学校訪問・学校説明会・オープンキャンパスの拡充
- 3) 学校・保護者・学生への PR 活動の拡充

5. 病院と学校の連携・協働した学習環境

- 1) 臨床講師との連携による魅力ある授業の充実
- 2) 臨床実習指導者会との連携による実習環境の充実
- 3) 病院・学校の共同研修・共同研究の推進

6. 学校安全対策・個人情報保護の徹底

- 1) 個人情報保護の徹底（SNS活用に際しての個人情報保護指導）
- 2) リスクマネジメントによる安心と信頼の獲得

7. 地域に根ざした愛される学校づくり

- 1) 三郷市の実習施設との連携・強化
- 2) 近隣住民の協力と連携による実習環境づくり
- 3) 模擬患者（近隣住民）参加による教育体制の充実
- 4) 教育活動の社会への還元

8. 経営戦略をふまえた教育・業務の推進

- 1) 適切なコスト管理と充実した教育環境
- 2) 教職員の意識強化と学生への指導

1. 学校評価のカテゴリー：9カテゴリー47項目

- 1) 学校経営 (7項目)
- 2) 教育課程・教育活動 (14項目)
- 3) 入学・卒業対策 (5項目)
- 4) 学生生活への支援 (3項目)
- 5) 管理運営・財政 (4項目)
- 6) 施設設備 (5項目)
- 7) 教職員の育成 (5項目)
- 8) 広報 (2項目)
- 9) 地域との連携 (2項目)

2. 評価実施 (教職員により年1回)

- ① 評価者：校長以外の教職員全員 (17名)
- ② 評価時期：年1回 (3月) * 30年度に限り8月実施

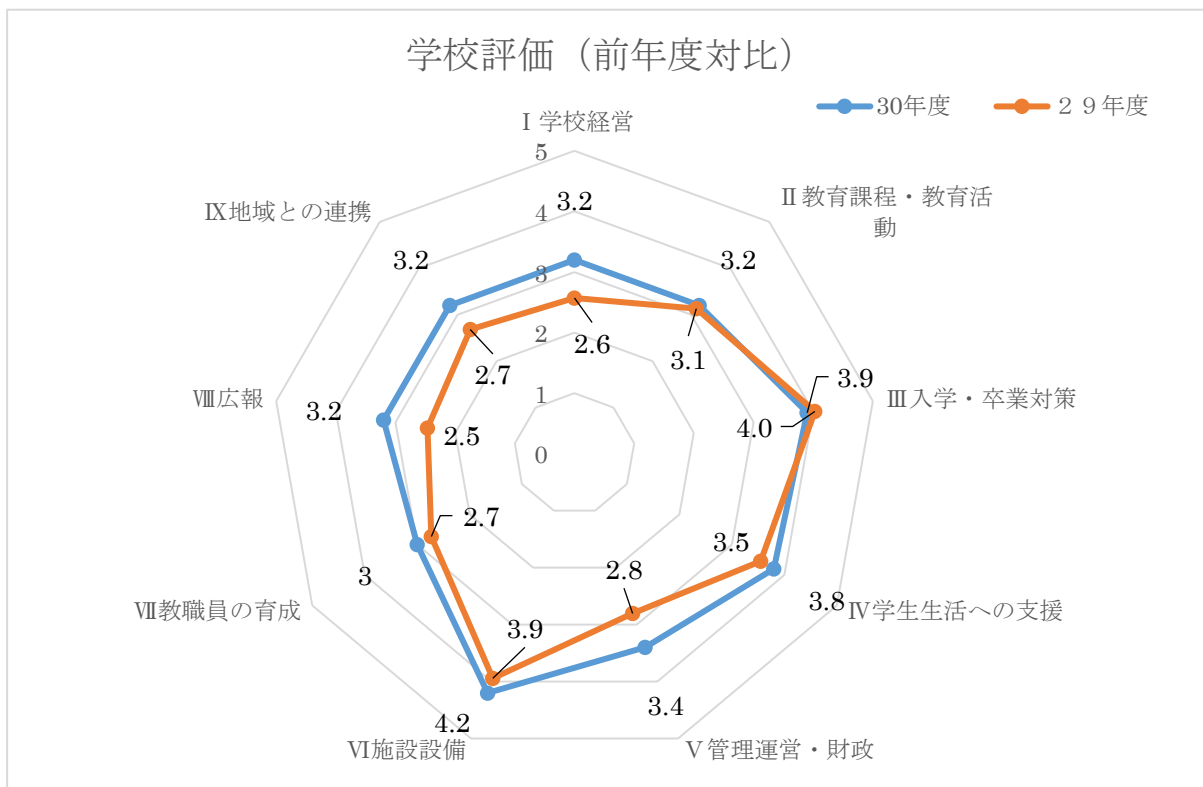
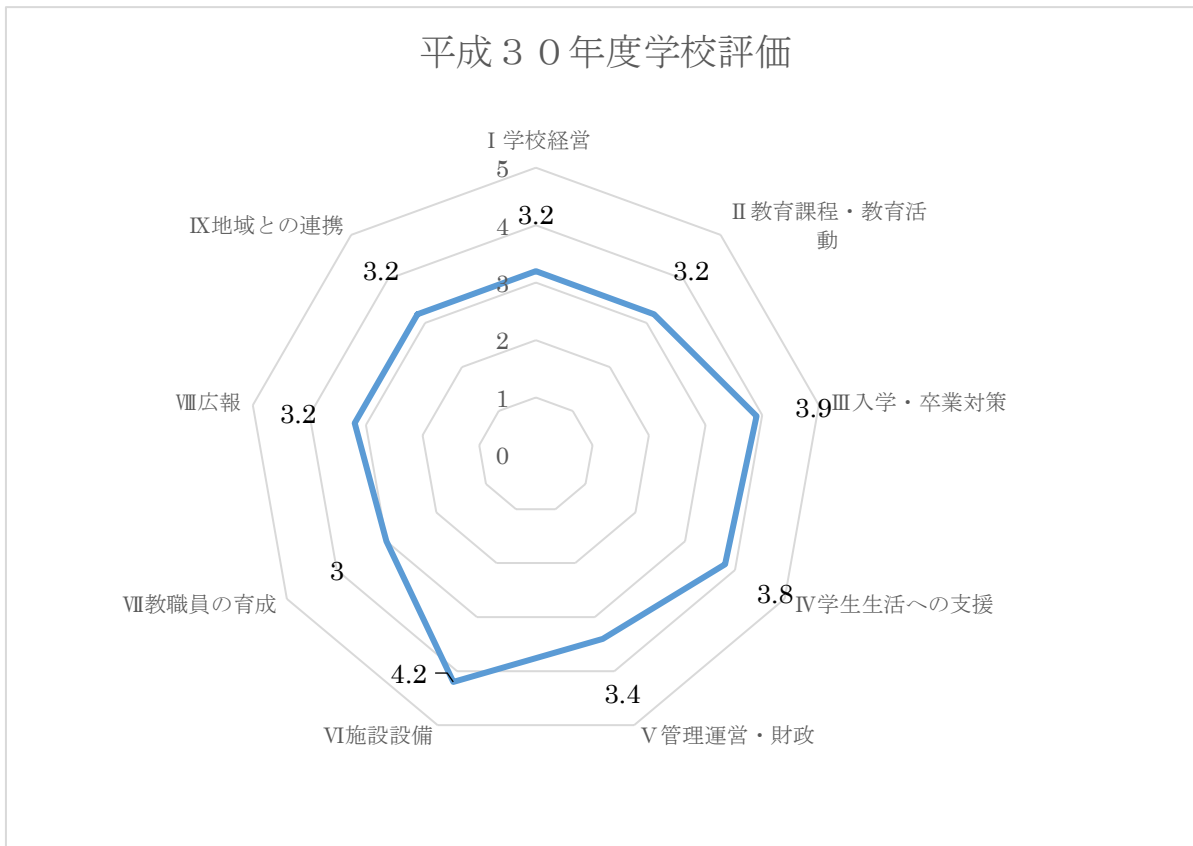
3. 自己点検・自己評価結果

1) 評価基準

領域	項目	領域	項目
I 学校経営	1 学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつその目標が教職員に理解されている。	IV 学生生活への支援	27 学生生活・進学・就職などの進路に関して学生の相談に十分応じている。
	2 組織目標に対する評価を年度内に実施し、その結果を教職員に周知すると共に、次年度の目標につなげている。		28 学生の身体的側面の健康確保に努めているか。
	3 学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知すると共に改善計画を策定しているか。		29 サークル活動、ボランティア活動等の自主活動を支援している。
	4 特色ある学校づくりを進めるために教育内容の充実に努めているなど、学校独自のカラー (特色) を出している。	V 管理運営・財政	30 予算計画、年間行事計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っている。
	5 合同協議が、学校運営に関する議論の場として機能している。 (運営委員会 教育業務委員会・教育運営委員会)		31 学生や非常勤講師、教職員の個人情報保護について、考慮している。
	6 教員会議が、学年の目標達成や年間指導計画実施の場として機能している。		32 災害など非常時の危機管理体制が整っている。
	7 学校運営のための組織を整備しているか。		33 学生運営に学生の意見が反映されるように努めている。
II 教育課程・教育活動	8 養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示していると共に、卒業時の到達状況を分析している。	VI 施設設備	34 校舎は耐震性に優れ、バリアフリーなどに配慮された構造になっているか。
	9 教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっている。		35 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。
	10 シラバス (授業計画) は科目間で調整され学生に活かされている。 (授業) とは講義・演習・実習をさす		36 図書室は利用しやすく学生に十分活用されている。
	11 講義・演習の一貫性と科目間の関連性を確保するため、担当者間の連携を取っている。		37 実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品が整い、十分にその機能を果たしている。
	12 効果的な授業運営を図るため、適切な時間割を調整している。	VII 教職員の育成	38 学生のために、休息、親睦及び交流を行なうためのスペースが設けられている。
	13 授業内容や指導方法が学生レベルに合うように工夫されている。		39 学校の抱えている課題をふまえた職場研修を行なっている。
	14 授業を効果的に行うための学習環境施設・整備・教員が整えられている。		40 学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元するしくみがある。
	15 学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。	VIII 広報	41 教員が計画的に研究活動を行えるよう体制を整えている。
	16 実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。		42 専門領域を高めるよう支援体制が整っている。
	17 実習指導者と教員の役割を明確にし互いに協力し実習指導に当たる体制があるか。		43 教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。
	18 学生に修了認定の評価基準と方法を公表しておりかつ評価について公平性、妥当性が保たれている。	IX 地域との連携	44 学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。
	19 実習における医療安全の確保や倫理的な行動に関する教育を行っている。		45 学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に何らかの方法で公表している。
	20 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。		46 地域社会への貢献の一貫として、学校施設を地元開放している。
	21 学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し授業の改善に努めているか。	47 地域との協力関係が確立されている。	
III 入学・卒業対策	22 より多くの応募者を確保することに努めている。		
	23 国家試験対策に個々の学生に合った指導・援助を実施するなど教職員一丸となっており組んでいる。		
	24 質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っている。		
	25 卒業生への支援を行っているか。		
	26 獨協医科大学への就職率を高めるよう努力している。		

2) 評価尺度 5点：よい・4点：ややよい・3点：普通・2点：やや不十分・1点：不十分

3) 結果



4) 9 領域各項目の分析

領域	項目	評価	分析
一 学校経営	1	学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつその目標が教職員に理解されている。	3.1 教育運営方針は、本校運営委員会で審議され、学長諮問会議及び医学部教授会に報告されている。本校の運営方針は最終的には本学の附属施設として、学園本部の学校別事業概要欄に掲載され、関係部署に周知されている。昨年の評価結果をもとに改善に向けた取組みを、教職員に説明している。教育運営方針から下りてきた目標を軸に各委員会・プロジェクトで策定するよう取り組んでいる。
	2	組織目標に対する評価を年度内に実施し、その結果を教職員に周知すると共に、次年度の目標につなげている。	2.9 学校評価の評価結果の時期が遅く、次年度の組織目標、各係や委員会の目標設定に活用できない状況であった。また、中間評価も実施しているが、各委員会やプロジェクトの単独事業での評価として認識し、組織目標との整合性が周知しにくい状況である。評価結果の時期を2月に変更し、次年度へ向けた改善策・目標へとつなげていく。
	3	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知すると共に改善計画を策定しているか。	2.8 評価の実施、結果の周知は出来ており、改善計画の策定も出来ているが、学校評価実施の時期がタイムリーな活動でないため、周知した上で改善計画まで年度内に行うことは時期的に難しい。評価結果の時期の検討が必要である。
	4	特色ある学校づくりを進めるために教育内容に充実に努めているなど、学校独自のカラーを出している。	3.7 社会的な課題解決のために学校独自に教育方法を検討し、プロジェクト学習や模擬患者、シミュレーション教育、ボランティア活動など実施している。今後、より教員間の共通認識を行い、教育評価を蓄積していくことが必要である。
	5	合同会議が、学校運営に関する議論の場として機能している。	3.3 運営委員会は本校の管理運営を司る重要な会議として設置されている。本校以外の役職者も含めた議論の場となっている。入試委員会や教育運営委員会、教育業務委員会、教員委員会も定期的に開催されている。会議の議題は事前に明確に周知されていない会議もあり会議運営の徹底が必要である。議事録は各会議において開催ごとに作成されているが、すべてを全員が閲覧できるシステムにはなっていない。
	6	教員会議が、学年の目標達成や年間指導	3.1 教員会議では学年目標・計画を作成し報告している。目標達成、計画実施の場となっており、目標策定も出来て

	計画実施の場として機能している。		いるが効率的効果的な運営であるかは課題がある。会議の場が報告のみになっていることも多いが、以前より学年の様子、指導について議論ができる場となっている。
7	学校運営のための組織を整備しているか。	3.4	開校から5年目でまだ不安定なところがあるが1つ1つに取り組み検討しながら作り上げているところである。教員・事務の組織配置は示されているが、連携と協働が効率よく出来ていないことで業務の無駄があり、改善が必要である。
平均		3.2	
<p>I 学校経営</p> <p>総合評価は3.2と昨年(2.6)より高い評価となった。学校評価を実施したことで、課題が見え改善へ向けての意識が高まった。</p> <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校のビジョン・組織目標の共通理解と各委員会・プロジェクト活動との整合性 2. 学校評価結果の周知と次年度活用のための評価時期の検討 <p>【今後の改善策】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校の理念・目標・卒業時の学生像と学校運営方針を具体化した様々な活動内容の評価との整合性を図り、教職員への周知を徹底していく。 2. 学校評価の時期(2月)の変更と年度内の改善策の策定 			
領域	項目	評価	分析
II 教育課程・教育活動	8 養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示していると共に、卒業時の到達状況を分析している。	3.3	教育理念・教育目標に基づき、卒業時の学生像として明示され、入学時・実習前オリエンテーション等では折りに触れ学生に説明している。病院との連携会議の中で卒業時到達度指標作成を行っているが、活用・評価については不十分であり今後検討が必要である。
	9 教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっている。	2.9	本校は、開校にあたり2年の準備期間を設け、看護基礎教育が抱える課題と社会のニーズ、現代の学生像を捉え、本学の建学の精神に基づき教育課程との一貫性を議論してきた。講義・演習・実習において分野の考え方に一貫性を持たせ関連性のある内容となっている。しかし定期的な見直しについて教員間の方向性の共通理解が不十分であり、目標と内容の一貫性に欠ける場合があり、定期的な検討の場が必要である。

10	シラバス（授業計画）は科目間で調整され学生に活かされている。 〈授業〉とは講義・演習・実習をさす。	2.8	各領域リーダーと科目担当者との間で話し合い、共通認識を促進する機会を設けているがまだ科目間でのばらつきが見られる。 シラバスは学生に配布されているが、講義変更も多く、事前にシラバスの内容、科目間の調整を十分行い、学生が授業を円滑に受講できるように改定していくことが必須である。領域外の教員も含めてシラバス評価を実施するとともに、次年度、シラバスの明示方法を検討し、活用できるシラバスを作成していく。
11	講義・演習の一貫性と科目間の関連性を確保するため、関係者間の連携を取っている。	2.9	各領域リーダーと科目担当者との間で今年度の授業評価を話し合い、次年度に向けての計画・修正も含めて共通認識を促進する機会を設けている。また専門基礎科目においては担当講師が複数いる科目も多く、一貫性に欠けることも考えられる。次年度、授業評価を実施し、講師の調整を行うことが必要である。
12	効果的な授業運営を図るため、適切な時間割を調整している。	2.5	時間割作成においては順序性を考え学習の効果を図っている。教員の實習時期、科目の重複等も考慮した時間割作成を行い、さらに演習室・教材の重複、学生の課題における負担も考慮に入れる必要がある。 又、今年度より1学年が80人体制となり、講義・演習の効果的な授業運営について更なる調整が必要であり今後の評価を注視したい。さらに、時間割決定後の変更が多く、作成時の各教員間の確認を徹底していくことが重要であり、教員全員がカリキュラムについて理解を深めるような説明と資料を提示することも必要である。
13	授業内容や指導方法が学生レベルに合うように工夫されている。	2.8	実習に関しては、学校全体で検討し内容や方法を話し合っているが、講義・演習に関しては領域内での検討で終わり、全体で共有されていない現状である。 新任の教員が多いことから、学校全体で授業案等の検討が必要である。 まだまだ授業研究・公開授業においては一部の実施に留まり全教員の実施には至っておらず、今後教育の質の向上へ向けてさらに計画していくことが必要である。
14	授業を効果的に行うための学習環境施設・整備・教員が整えられている。	3.7	本校は開校4年目であり施設環境は優れている。PC室、図書室、実習室、演習室、グループワーク室等すべては解放され学生の学習内容に応じて使用できるよう整えられている。教員数は指定規則に掲げられている人数は十分達しているものの実習指導で学内の教員が不

			<p>足し教育に支障を来たさぬ様に人員配置を整えていくことが必要である。</p>
15	<p>学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。</p>	3.5	<p>入学時ガイダンスにて、単位取得に関する説明を実施しているが、高校までの学習システムとの違いや学則や規程の読み込みや理解度に差があり具体的な説明と継続的な支援が必要である。実習においては学生の相互理解、支援が行われており、講義科目に関しても、未修得になった学生に対して面接・学習指導が行われている。非常勤講師と連携し知識の定着に向けて個別指導を実施しているが、未修得科目、平均点の低い科目の分析、講師へのフィードバックが不十分であり、今後授業評価も含め分析が必要である。</p>
16	<p>実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。</p>	3.6	<p>実習施設は、学校近隣の三郷市、越谷市、吉川市ですべてが実施できている。打ち合わせや反省会は市の企画調整課が企画・連絡・調整を担い、実習環境に恵まれている。</p> <p>附属病院での実習時間は多くを占めるが実習指導者は毎日配置され、教員とともに学生指導を担っている。</p> <p>実習先にはC Fルーム、更衣室等が整えられており、物品の不足に関しては学校と連携し現在整備中である。</p> <p>実習配置は概ね専門性を活かせるように配置している。</p>
17	<p>実習指導者と教員の役割を明確にし互いに協力し実習指導に当たる体制があるか。</p>	3.9	<p>実習指導者と教員の連携は開校当初より相互に指導体制を整えている。定期的に附属病院の実習指導者会に参加し、実習の状況、問題等の対応について指導者と随時話し合いが出来ている。また、病院管理者と学校管理者にて連携プロジェクト会議を立ち上げ、入学から看護師5年目までの8年間の中で一貫した教育ができるシステムを作り、看護師育成を目指している。</p> <p>実習指導につながる学習会の開催を今後企画し、さらに連携を強化していく。</p>
18	<p>学生に修了認定の評価基準と方法を公表しておりかつ評価について公平性、妥当性が保たれている。</p>	3.2	<p>成績評価規程を整備し学生の手引きに掲載されている。評価結果は運営委員会を経て、最終的に学長の承認を得ている。評価基準と方法について、実習においては、ルーブリック評価を提示し、複数（指導者・教員）で面接・評価を行っている。定期試験後の模範解答の提示はされておらず学習効果・評価の公平性を含めて検討が必要である。</p>

	19	実習における医療安全の確保や倫理的な行動に関する教育を行っている。	3.7	入学時のオリエンテーション、授業科目、実習開始ごとの説明にて看護師としての倫理的行動について教育を行っている。 また、実習における困難な指導については事例検討会を開き、教員間の共有と指導方法について議論しあう場を設けている。 インシデント発生時は施設側・教員間・学生間で共有し、再発防止のためのカンファレンスを行っている。
	20	学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。	3.6	学生の個人情報に関して入学時の書類作成時より人権が侵されないよう配慮を欠くことがないよう組織として議論している。又、患者の人権も同様に配慮されなくてはいけないことを入学時より教育し、実習時には個人情報保護法、実習同意書等十分な説明を行い、書類を作成し実習を行っている。 実習アンケート・ご意見箱等を通じて寄せられた教員の指導方法に対する指摘については教員間で共有している。
	21	学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し授業の改善に努めているか。	2.9	次年度より学校で統一された授業評価を行っていくように検討している。授業評価をどのように活用していくか検討中である。現在は非常勤講師の授業評価は実施しておらず学生の意見が反映されにくい状況である。
	平均		3.2	
II 教育課程・教育活動 【課題】 1. シラバスにおいて、学生が主体的に学習に取り組み、自己評価し成長できるような分野・科目間の関連性が見えにくい。 2. 学生・教員双方にとって効果的な授業運営ができるような時間割の調整が不十分である。 3. 全科目の授業評価が実施できていない。 【今後の改善策】 1. 学生が主体的に学習に取り組めるようなシラバスの作成に取り組む。 2. 定員増における授業時間の増加、実習時期、業務役割を考慮した時間割の調整と理解に取り組む。 3. 統一した授業評価の実施に取り組む。				
業 策 目 入 学 ・ 卒	22	より多くの応募者を確保することに努めている。	4.2	各高等学校や指定校に全職員で出向き学校案内・説明を行っている。本校の認知度も高くなり、高校主催による説明会への参加依頼も多くなっている。また、学校説明会やオープンキャンパス実施に当たっては昨年度の傾

			<p>向や反省を活かし改善がなされ、実施後のアンケートでの満足度・人気度は高まっている。</p> <p>但し、学生の出身高校へのフィードバックが出来ておらず、さらなる学生確保へ向けての対策の1つであると考ええる。</p>
23	<p>国家試験対策に個々の学生に合った指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいる</p>	4.3	<p>2年連続、看護師国家試験合格率100%に至った。開校当初より、入学前学習から継続する国家試験対策プロジェクトを設置し、学生の3年間の学習支援を実施している。各学年での指導内容を明確にした国家試験対策を実施している。それぞれの学年のレディネスを把握し、学習を深める時期や習熟度に分けて強化することも企画している。学習支援が中心となり活動しているが、教職員一丸となって取り組んでいるという認識になるための周知と共有を徹底していくことが必要である。</p>
24	<p>質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っている。</p>	3.7	<p>学生指導においては担任制をとっており、担任による定期面接に加え学生個々の相談内容によっては、学年主任、教務主任等で話し合い対応している。保護者を交えての面接を行い、その要因に応じ埼玉医療センターの専門医へ相談する体制を整え、学生の強みを生かすよう支援している。課外時間を使い学生の技術習得指導もチームで取り組んでいる。退学率は2%以下である。</p>
25	<p>卒業生への支援を行っているか。</p>	3.6	<p>卒業後3～4ヶ月目にホームカミングデイを設けている。附属病院と連携し全員がホームカミングデイに参加できるように配慮してもらっている。卒業生については本学すべての図書室の利用が可能であり、卒後も生涯学習の支援を行っている。既卒者、中途退職者への支援としては、システム化されておらず急務である。</p>
26	<p>獨協医科大学への就職率を高めるよう努力している。</p>	3.9	<p>医科大学と連携し看護師対策として大学雇用戦略室を中心とした本学就職支援体制が確立されている。毎年90%以上の附属病院への就職があると同時に、早期離職者がいないよう病院・学校双方の取り組みが必要である。</p>
平均		3.9	
<p>Ⅲ 入学・卒業対策</p> <p>総合評価は3.9と高評価である。今後も入学生の確保と入学後の関わりも含めてさらに検討し、より質の高い教育の提供ができるよう教職員一丸となり取り組んでいく予定である。また、就職率と同時に離職率も視野に入れ、双方の課題を検討し、取り組むことが必要である。</p>			

M 学生生活への支援	27	学生生活・進学・就職などの進路に関して学生の相談に十分応じている。	3.7	入学時より卒業後の進路に関して、選択肢があることを情報提供している。附属の養成施設であるため他施設、進学を推奨することは敢えてしないが、希望があれば相談に応じている。具体的な相談システムを作っている。
	28	学生の身体的側面の健康確保に努めているか。	4.2	入学後のオリエンテーションで校内のカウンセリングルーム、カウンセラーの紹介・役割を学生に周知している。担当が面接を行い必要と思われる学生にはカウンセリングを勧めている。専用のカウンセリングルームを作り、カウンセリングの予約・活用状況は個人情報に漏れないように配慮されており、カウンセラーとの連携体制を整えている。 健康診断は毎年4月に実施され、必要があれば埼玉医療センターへ受診ができるよう連携体制を整えている。
	29	サークル活動、ボランティア活動等の自主活動を支援している。	3.4	学生の自治会を立ち上げ、学生が自主活動を通して社会貢献できる体制を整えている。 サークル活動はまだ機能していないが、ボランティア活動に関しては担当教員を配置し積極的に活動しており、高い教育効果をあげている。(みさと団地への血圧測定、子ども食堂、地域のごみ拾い、阿波踊り参加、団地夏祭り)ボランティア活動を活発に支援していくために、4月に三郷市の社会福祉協議会より説明を受ける体制を取っている。
平均		3.8		
IV 学生生活への支援				
【課題】				
1. 学生の進学・就職に関する相談・支援が不明瞭				
【今後の対策】				
1. 進学・就職に関する相談・支援システムについて決定・周知していく。				
△ 管理運営・財政	30	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っている。	3.6	本学の中長期計画を基盤として次年度年間計画を策定し、予算・事業執行を行っている。定期的に学園本部の監査ならびに公認会計士による会計監査を実施している。節減対策においても現況による課題を出し、対策を講じているが、組織的な経営計画立案と内容の共有が必要である。
	31	学生や非常勤講師、教職員の個人情報の	3.4	本学には獨協医科大学個人情報保護規程が制定されており、「学生のしおり」に掲載されている。個人情報保護については実習及び学年のHRにて適宜指導・教育を実

		保護について、考慮している。		<p>施しているが、ガイドラインを作成し教職員、学生に周知していく必要がある。</p> <p>学校独自の倫理委員会はないが教育業務委員会がその役割を担い、倫理的配慮が必要な問題について検討している。入学後の学生情報内容、知り得た個人情報の共有のあり方を含め検討事項である。</p> <p>パワーハラスメントについては本学のSDセンター教員研修部門にて研修会を設け、事例の検討・教育を実践している。</p>
	32	災害など非常時の危機管理体制が整っている。	2.9	<p>安全管理については、警察署・消防署と連携し、カリキュラムの中に組み込み危機管理対策に取り組んでいる。火災・震災その他の災害予防及びこれら災害による物的被害を極力軽減するために防災教育と合わせ有事に備えて年1回の避難訓練と消火訓練を実施している。又、入学時のオリエンテーション等では防災意識を高めるためのグループワークを実施し、災害時における判断行動へつなげるための危機管理や人命の安全に関する教育を行っている。本校は三郷市の避難場所となっている。本校学生の災害用の備蓄が整備されたがまだ不十分である。医科大学と連携し緊急時の連絡体制については導入予定である。</p>
	33	学生運営に学生の意見が反映されるように努めている。	3.5	<p>学生の意見や要望を聞くための意見箱を設置している。意見・要望に関しては、教育業務委員会に提出し対応策を検討している。しかし、意見・要望についての改善策や検討内容が明確に提示されないことで不満の声もある。次年度、要望のあった自販機（食品）を導入する予定である。</p>
	平均		3.4	
<p>V 管理運営・財政</p> <p>【課題】</p> <p>1. 本校学生の災害時の危機管理体制の不備（備蓄・連絡体制）</p> <p>【今後の対策】</p> <p>1. 学生個々に最小限の備蓄の備え、学校内に災害用の備蓄をさらに準備するよう取り組む。</p> <p>2. 緊急時の連絡体制システムの早期導入</p>				
≡ 施設設備	34	校舎は耐震性に優れ、バリアフリーなどに配慮された構造になっているか。	4.6	<p>校舎は開校4年目であり、耐震基準においては問題ない。バリアフリーなど配慮されており、障がい者用トイレも設置され、エレベーターも設置されている。</p>

35	教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。	4.3	<p>本校の教育内容にふさわしい設備が設けてあり、学生の主体的な学びを促進する活用が出来ている。講義室には最新のメディア機器やスクリーンを常設している。</p> <p>PCにおいても学生は自由に使用でき、校内すべてにWi-Fi環境が整っている。自主学習ができる演習室も15室設け、グループワーク等に有効に活用できている。シミュレーション等の演習も学生の主体的な学びができるよう教材を整えている。</p> <p>必要物品は揃っているが、教職員の管理、整頓が不十分であり活用できていない。</p>
36	図書室は利用しやすく学生に十分活用されている。	3.8	<p>本校には司書を1人配置し、図書室の管理を行っている。本校の図書室は獨協医科大学図書館と連携し図書の利用を提供している。</p> <p>入学時や看護研究への取り組み時には適宜、司書のオリエンテーションを実施し、学生の活用を促している。</p> <p>本校は開校4年目であり指定規則の蔵書数は達しているが、定員増に合わせた図書の種類、数が不足している。また、利用時間や貸し出し手続きに制約があり学生が使い易いような環境には不十分である。</p> <p>年に1回蔵書点検を行い、使いやすいように整理されている。</p> <p>学生の利用マナーに問題があり、今後適時指導していくことが必要である。</p>
37	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品が整い、十分にその機能を果たしている。	4.2	<p>ベッド数、スペース、教材等も十分に確保されている。備品・設備に関しては担当教員が管理し、使用方法・管理・定期的な点検が出来ている。</p> <p>教材・施設は常に学生に開放し、自主的学習ができる環境を整えている。</p> <p>自由に活用できるような環境であるが、利用マナーに問題があり、破損物品が放置されることもあり、指導を強化していくことが重要である。</p>
38	学生のために、休息、親睦及び交流を行なうためのスペースが設けられている。	4.3	<p>本校は講義室以外に、ラウンジ、フリースペース、運動場、講堂等多様な場所が確保されており学生は自由に活用している。サークル室も設けてあり、自治会活動にも活用している。運動場・講堂には体育用品も準備されており、交流の場となっている。</p> <p>食堂は設けていないが、増員に伴い、電子レンジ、給湯の準備は整えられている。</p>

平均		4.2	
VI 施設設備 総合評価は4.2と高評価であり、施設設備の問題は無いが、年々利用に関する学生側へのマナー教育が必要となっている。			
III 教職員の育成	39	学校の抱えている課題をふまえた職場研修を行なっている。	3.4 学校全体として学会・研修への参加、研究活動、自己啓発などへの支援体制は整えられている。学校全体の課題についてFDも含めて検討し、研修を計画しているが、頻度は少ない現状である。
	40	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元するしくみがある。	3.1 学会・研修への参加した成果を他の教員へ伝達講習する時間の確保が難しく、会議等で予定されていても効果的にタイムリーに還元されていない状況である。還元する方法と時間の確保を計画的に実行し、教員の質の確保に努めていきたい。
	41	教員が計画的に研究活動を行えるよう体制を整えている。	2.6 新設校として新しい取り組みを多く取り入れ教育実践した成果を研究活動として計画的に発信していきたいと考えている。現在個人で研究活動を行っている専任教員は一部ではあるが、研究活動を行うための指導体制も含めて組織作りを整えていくことが重要である。看護学部・壬生校と連携し、研究活動ができる体制を整えていくことを検討している。 又、専門学校で研究活動を行うために時間の確保、業務の煩雑さも含めて整理していく必要がある。
	42	専門領域を高めるような支援体制が整っている。	2.9 新設校として、教員間の連携・学校のカリキュラムの共通理解を重点に取り組んできた。4年目を迎え、今後徐々に専門領域へ確立していく体制・組織作りへと整えていく計画である。教員の定着と教育方法の改善・確立に向けて取り組んでいる。
	43	教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。	3.0 教員の質の向上を目指して、授業公開をFDで計画しているが、全教員が実施していると言い難い状況である。授業研究の必要性や効果について全教員で理解しあうことが必要である。埼玉県高等看護学校教務主任協議会の事業である看護教員教育力アップ研修を行い埼玉県下の専任教員の授業研究を実施している。授業研究の取り組み、リフレクションの仕方を取り入れ効果的な参観・講評ができる仕組みを作っていくことが必要である。
平均		3.0	

VII 教職員の育成

【課題】

1. 学会・研修での成果の伝達講習の還元を通して、全教員の質の向上へ向けての取組みが不足している。
2. 教員の研究活動への支援体制（時間の確保・指導体制）が不十分
3. 教員の授業研究の必要性と効果が共通理解されていないことや方法や時間の確保が明確でない。

【今後の対策】

1. 学会や研修の伝達講習の体制を作り、タイムリーに共有し、教育の質の向上に努める。
2. 研究活動の基盤を作るための研修や個々が研究内容を相談できる支援体制を作る。
3. 授業参観やリフレクションの効果、共同で作りに上げていく教育方法の仕組みや楽しさを共有できる場を整えていく。

Ⅲ 広報	44	学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。	3.3	教職員全員で広報活動に力を入れてきた。オープンキャンパス等の来場者も増加している状況であり、ほとんどの受験生はホームページで情報を得てきている。しかし、本校のホームページの更新が不十分であり、リアルタイムの情報が配信されていないのが現状であるが、次年度ホームページがリニューアルされる予定である。
	45	学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に何らかの方法で公表している。	3.0	昨年、学校評価を初めて実施し、結果をホームページに公表している。次年度、学校関係者評価や授業評価へ向けて早急に取り組むことが必要であり、現在取り纏めている段階である。
平均			3.2	

VIII 広報

【課題】

1. ホームページのリアルタイムな更新を行えず情報発信が遅い。
2. 授業評価・学校関係者評価が実施できていない。

【今後の対策】

1. 次年度は大学全体でホームページのリニューアルが予定されている。
2. 次年度に授業評価・学校関係者評価へ向けての計画案を策定し実施する。

Ⅳ 地域との連携	46	地域社会への貢献の一貫として、学校施設を地元開放している。	2.4	本校は地域の防災拠点となっており、災害時の避難・備蓄場所として開放している。 地域住民への学校・運動場の解放については、施設の管理・住民の安全の確保等から現在行政と検討しているところであるが、運動場の開放は地域の要望が多く地域貢献度の向上のためにも今後検討する必要がある。 現在、三郷市からの依頼で子ども大学を実施しており、三郷市の小学生や保護者が本校で学ぶという事業を受
-------------	----	-------------------------------	-----	--

			けている。今後地域住民を対象とした公開講座も含めて検討していく予定である。
47	地域との協力関係が確立されている。	3.9	<p>本校は開校当初より、模擬患者養成やボランティア参加など十分な協力関係が確立している。</p> <p>三郷市の自治会と連携し、講義・実習に協力してもらう体制を整えている。自治会や老人会へ出向き打ち合わせ会議を行っている。</p> <p>学生はボランティアで地域の行事に参加させてもらい、地域との協力関係をさらに築いている。</p> <p>しかし、地域の教育活動には貢献できておらず今後の課題である。</p>
平均		3.2	
<p>IX 地域との連携</p> <p>【課題】</p> <p>1. 地域住民に対しての学校施設の開放が不十分である。</p> <p>【今後の対策】</p> <p>1. 三郷市と本学本部との調整が学校開放には必要であるが引き続き検討していく。</p> <p>又、地域住民に対しての公開講座を計画していくことを検討する。</p>			